

BF ニュース 2025 年 2 月

◆帳票マーケット情報研究会の開催予定

コロナの影響も落ち着いてきたこともあり、そろそろ対面セミナーの開催も検討する機運となりました。決定次第、周知させていただきます。

◆老舗倒産、過去最多を更新 145 件(1/30)

100 年以上の長い歴史の老舗の倒産が増加している。2024 年には 145 件と「リーマンショック以後を大幅に上回る高水準の倒産件数となった。

全国で 100 年以上の社歴を持つ老舗は帝国データバンクの調査で 45284 社があるが、その老舗企業で事業継続が難しくなっており、老舗の倒産が増加していきそうな気配が見える。

業種別では小売業が多く、43 件で、スーパーマーケット 5 件を筆頭に百貨店 2 件等の大型施設が、さらに呉服小売り 4 件、料亭 3 件、製造業が 42 件、郷土料理や水産食料品製造 4 件、日本酒や焼酎など銘菓製造なども 3 件あった。(帝国データバンク)

◆辻商事(函館)自己破産へ(2/17)

辻商事(函館)は 1912<大正元年>創業の老舗の印刷業者、道内に本店と札幌に工場、オフセットを中心に、短納期や小ロット対応など多品種対応で 2006 年 6 月期は年売上高約 17 億 9500 万円を計上していた。

近年は印刷需要の低迷に加え、大口需要がなくなるなど、24 年 6 月期は年売上高約 8 億 7200 万円に、材料費の上昇等で赤字決算が散発、債務超過が続き、今期に入っても業況は改善せず、先行きの見通しが立たないために事業継続を断念した。負債は約 7 億円と見込まれているが、変動する可能性がある。(帝国データバンク)

◆紙・板紙需要 2.4%減少予想

(製紙連 25 年予想) (1/20)

日本製紙連合会が 1 月 20 日に発表した 2025 年の紙・板紙の内需見通しによると、紙・板紙の合計は 2061 万トンで前年比 2.4%減、4 年連続でマイナスになる見通しとなった。

印刷用紙はデジタル化やコスト削減による減少が 6.3%減少、パッケージング用紙はインバウンドの増加などが見込めるものの包装資材の削減などもあって 0.7%減と微減を予想している。衛生用紙のみは人流の増加が見込めるとして、0.8%の微増を見込んでいる。

品種別では新聞用紙 8.5%減、非塗工紙 5.5%減、塗工紙 6.0%減、情報用紙が 5.0%減、包装用紙 1.7%減、段ボール原紙 0.5%減、白板紙 1.5%減、主要品種は衛生用紙以外はすべてマイナスとなっている。

◆デジカメ世界出荷額回復(2/4)

ミラーレス一眼などのデジタルカメラの出荷が 9 年ぶりに回復してきた。カメラ映像機器工業会(CIPA)が発表した 24 年のデジカメの世界出荷額は 23 年比 15%増の 8247 億円だった。4 年連続のプラスで 2015 年以来的の水準となった。出荷台数は 10%増の 849 万台まで伸びた。中国向けが 2299 億円と 28%の増加でシェアは前年の 15%から 28%へ上昇した。出荷の機種はソニーと富士フィルムで、スマホよりもきれいに映ると SNS 向けに「映え」が重視され、動画対応の動く被写体への自動フォーカスへの機能のアップを競っている。高機能化ではカメラの価格も高くなる。世界市場の単価は 24 年には約 9 万 7 千円とこの 10 年間で 4 倍になっている。

◆新聞総発行部数 6.9%減 2661 万部 (2/10)

日本新聞協会の昨年 10 月の調査では購読者の減少は続き、協会加盟の 106 紙の総発行部数は前年同期比の 6.9%減少の 2661 万 6578 部となった。人口 1000 人当たり普及度は 251 部で前年比マイナス

19 部、1 世帯当たりの普及度は 0.49 部から 0.45 部へ減少している。新聞発行のピークは 1997 年の 5377 万部で、現在その約半分となっている。（紙之新聞）

◆三菱重工、新聞輪転から撤退、残るは 1 社

日刊新聞の販売が部数の維持が難しくなっているのは、周知の事実だが、印刷技術面からも、新聞輪転のメーカーも厳しく、三菱重工の子会社の三菱重工機械システムが新聞の制作ラインから撤退することになった。残るは東京機械製作所ただ 1 社となる。（紙之新聞）

◆医療費請求書審査業務、ずさん処理（1/29）

厚生労働省所管の医療費審査機関がずさんな審査をしたとして職員の処分をした。社会保険診療報酬基金は医療機関が提出したレセプトを審査して各患者の医療費を適正なものとして審査する機関だが、年間約 13 億件のレセプトを審査しているが、審査業務を担当する職員が自前のツールを使ってずさんな審査をしていたとして 290 人の職員を処分した。

審査業務は大半が自動化されているが、高額なものなど、内容に誤りがないか目視確認することになっている。レセプトを 1 秒以上画面で確認することが義務付けられている。

2024 年 11 月に九州の審査職員が一定の秒数が経つと自動的に画面のページをめくるツールを使っているのが発覚したため、全国の審査職員 3630 人を調査したところ 290 人がこのツールを使っていた。ツールを起動したまま離席したケースもあり、無人のまま確認済となっていた恐れもあった。

◆健康保険証、12 月 2 日で新規発行廃止。

政府の発表では 12 月 2 日で新規発行が終了となった。今後はマイナンバーカードを利用した健康保険証（マイナ保険証）だけが発行される。紙やその他のカードタイプのものは発行されない。

1. 保険証の代替になるものは今までの保険証は 2024 年 12 月 3 日から 2025 年 12 月 2 日までの 1 年間は、従来の保険証の有効期限内なのでそのまま使える。（後期高齢者保険証は 25 年 7 月 31 日が有効期限）期間の延長はできない。
2. 12 月 2 日以降は、保険証の代わりに資格確認書（保険証と同サイズ、同内容＝カードサイズあるいははがきサイズで長期間の使用に耐える構造で）が発行される予定になっている。
3. 後期高齢者保険証の保持者で、マイナンバーカードの保険証登録のない人には、有効期限の 7 月 31 日までに健康保険証の代わりになる「資格確認書」が指定住所まで届けられる。この資格確認書は、従来の健康保険証と同様に、事前に発行され、請求なしで各自の住所に書留便で郵送される。健康保険組合あるいは団体によってはこの場合は有効期限前（7 月以前）に発行される場合がある。

◆マイナ保険証登録解除 58426 件(2/19)

厚生労働省の発表では 10 月下旬から受け付け開始したマイナ保険証の利用登録解除申請は、11 月まで 13147 件、12 月は 32067 件、1 月は 13212 件で、合計 58426 件となった。

一方ではなかなか伸びなかったマイナ保険証の利用率は、新規保険証の発行停止と PR によって大幅に増加、新規登録は 191 万 3342 件、利用率は前月よりプラス 7% で 25.42% まで伸びた。

今後は官民が知恵を絞っていかに持続させるかがカギとなる。

◆出版の KADOKAWA が 1 冊からの小口印刷受注へ

「ところざわサクラタウン」内の HP 社の最新鋭デジタル印刷設備 8 台を備えた書籍製造・物流工場は、“製販一体型ブックオンデマンド”を実現することにより、「必要な本を」「必要な人に」「必要な時に」お届け

けすることを可能にした。このソリューションは、一般のプリントオンデマンドのシステムから大きく進化し、全ての工程がコンピュータ制御され、受注から納品までのスパンも大幅に短縮された。日本全国、そして世界中の読者の皆さまへ「品切れのない」1冊の本を大切に製造・出荷できることになった。中小印刷業にとっての競合相手がまた誕生したことになる。

◆日産・トヨタ系列に下請法違反、
公取が勧告（2/14）

日産自動車の系列子会社の愛知機械に、自動車部品の金型を無償で保管させた、として、公正取引委員会は下請法違反で再発防止を勧告することになった。また、トヨタ系列の中央発条についても、同様の勧告を行った。

同社は公取の調査を受けて、保管費用 2 千万円を、また、トヨタ系列の中央発条は 572 万円すでに支払っていると発表した。

◆みずほ銀でも貸金庫窃盗事件発覚
（2/19）

みずほ銀行は 2019 年に同行員による貸金庫からの窃盗事件があったことを発表した。顧客 2 名から数千万円を盗んでいた。貸金庫をめぐる三菱 UFJ 銀行の同行員による多額の窃盗事件で金融機関の信頼を揺るがす事件となっているが、相次ぐ事件の発覚で貸金庫ビジネスは厳しくなりそう。

UCDA関連ニュース

2025 年 2 月

◆みんなのピクト

大阪・関西万博の公式ピクトに認定されたことから、UCDA の HP でも大きく掲載しました。

すでに、大変多くの万博出展企業から申込をいただいています。特に「京都物産出品協会」では、協会の会員企業数十社に利用してもらうことになりました。

◆UCDA「見やすいデザイン」評価ツール

「ヨミヤス」は、印刷会社において 1 者企業への提案活動にて具体的な成功事例が出始めています。その他、月単位で契約している印刷会社より、再利用の申請が複数あります。

各 UCDA 認証案件への活用、それ以外に自治体などの「ユニバーサルデザイン」対応が求められる案件にて活用している事例があります。

◆アワード関連情報

2025 年度の「UCDA アワード企画」について、公表できる範囲で 2 月 3 日 HP 上に公開しました。

エントリー説明会は 1 回目：3 月 12 日（月）／2 回目：3 月 26 日（水）／3 回目：4 月 16 日（水）に実施します。各オンラインにて予定します。

UCDA の HP では「UCDA アワード 2025 特設サイト」を 3 月上旬に公開の予定です。

◆認証案件の動向

- ・伝わる：生保の案件 3 件について評価及び統合会議を進めています。

食品パッケージでは、昨年春に提出した「評価レポート」に基づく改善に時間を掛けて取り組んでいます。

- ・見やすい：現在も新規申請と更新申請が重なって入っています。「特急審査」依頼も例年より多く、評価部門は引き続き鋭

意対応中です。

◆認定関係の情報

- ・2 級講座：前月に引続き定例開催の 2 級講座は低調。来期の受講については、集団受講を含め問合せが多く入っています。
- ・1 級講座：3 月の講座は、現在 7 名の申込が入っています。すでに来期の受講相談も数件入っています。

◆その他の情報

新たに某生保や某銀行から UCD 推進の相談が入ってきました。

それぞれ「基本セミナー」や「2 級講座」の受講と、「伝わるデザイン」の認証取得を両輪で進めていただくよう提案しています。